

令和5年度 かながわティーチャーズカレッジ

# COLLEGE NEWS

カレッジニュース



令和5年 11月 19日 発行  
神奈川県立総合教育センター  
かながわティーチャーズカレッジ事務局  
(教育人材育成課キャリア開発班)

## 第6回 かながわ教育学講座

令和5年10月22日、第6回かながわ教育学講座「授業づくりを学ぶ①」が開催されました。授業力の向上をテーマとした今回の講座では、各校種・教科の教員であった。指導主事による模範授業、授業づくりのポイントや学習指導案（単元・題材と指導の計画）作成についての講義が行われました。

模範授業や講義では、単元や本時の授業の目標として「子どもたちに身に付けさせたい力（資質・能力）」を明確にすることや、目標の達成状況を見取るための「評価規準」「評価の場面」の設定など、第5回教育学講座で理論的に学んだ「いま求められる授業」の具体的な内容について、実演を通して学びました。

模範授業や講義のあとは、指導案作成の演習等を行いました。単元（題材）を通して「子どもたちに身に付けさせたい資質・能力」について考えたり、「子どもたちが主体的に学びに向かうためにはどのような学習活動を取り入れると良いのか」と頭を悩ませたりしながら、授業づくりに取り組む姿が見られました。

12月に行われる教育学講座では、受講者一人ひとりが作成した学習指導案（単元・題材と指導の計画）に基づいた模擬授業を行います。神奈川県が求める「わかりやすい授業を実践する教員」を目指して、創意工夫を凝らした授業ができることを期待しています。



## 受講者のワークシートより



### 《オープンコース小学校》

学習指導案作成後に一度班員と共有した際、人によって授業の「50分」という時間の使い方が大きく異なっていて面白いと感じると同時に、導入で長々と復習等に時間をかけすぎてもよくないということも気付いた。実際に生徒の前で授業をする場合には、例えば本日の模擬授業で言っていたような「グラフの読み取り方」であったり、「社会的事象との向き合い方」など、生徒が今後生きていく上で身に付けてほしい事をしっかりと伝えられるようにしたい。その授業内だけで終わらせてしまうのは勿体ないと感じた。

## 受講者のワークシートより

### 《チャレンジコース小学校》

子どもたちが、授業を通して資質・能力が身に付いたことを実感できるよう、指導案作成時から身に付けさせたい力を明確にすることが大切である。そして、身に付けさせたい力を育成するためにふさわしい言語活動を適切に取り入れることが重要になることを学んだ。また、「音読」という活動も論理的な視点で読む場合や、すらすらと正確に読むことを目的とする場合など、目標に合わせた様々な方法があることを学んだ。子どもたちが学びたいと思えるような授業をつくれるよう、導入にクイズやオリジナルの教材を取り入れるという工夫も学ぶことができ、今後、模擬授業で実践していきたい。

児童主体の授業づくりを行うには、学習のめあてから、児童が考えられるように工夫することが大切だと学んだ。児童が自分達でめあてを考えられることは、具体的な見通しを持ち、意欲的に取り組めることにつながっていた。前学年の内容や児童の現状から児童がめあてにつなげられるような発問ができるようになりたいと考えた。その為には、指導案を作成する際に、児童の反応を多面的・多角的に予想した発問を具体的に考えることが必要である。良い授業を行うには、授業づくりの時だけでなく、授業外での児童との関わりで児童理解を深めることが大切だと考えた。

### 《チャレンジコース特別支援学校》

改めて、授業を作る・考えるという事は難しいと感じた。特別支援学校だからこそ取り組むことができる授業づくりを今日学んだ。育成を目指す資質・能力を系統的に身に付けていくという事は一つ欠けても学びにならないとわかった。指導案を作るということは、授業の計画だけでなく、子どもを成長させるためのより良い授業改善にも活用できると感じた。また印象的だったのは、子どもを「待つ」ということだ。「沈黙＝分からない」ではなく、答えようとしている可能性もあり、子どもの自己肯定感をあげるチャンスであると分かった。

### 《チャレンジコース中学校英語又は高等学校英語》

授業を展開する上で、生徒にできるようにしてほしいことを具現化して考えることが重要であると学んだ。文法はあくまで“手段”であり、生徒の英語4技能や、単元目標を支えるものであると改めて認識ができた。また、指導案づくりを通してもっと様々な指導事例や活動例、学習方法などを知り、理解する必要があると思った。そのため中学校・高等学校の教科書を見たり、授業の事例を調べたりして自分の授業づくりにいかしていきたいと考える。

### 《チャレンジコース中学校国語又は高等学校国語》

実際に指導案作りをしてみて、これまで自分が受けてきた品詞分解や現代語訳に偏った授業にならないようにすることが難しかったです。この講義を通じて生徒に何を身に付けさせたいか、というゴールから逆算して言語活動を考えることが必要だと分かりました。また指導案を考える際に教科書に載っている教材以外に使える教材が思いつかず、その引き出しが少ないことが自分の課題だと感じました。だから今ある教材と一緒に学ぶことのできる教材にどのようなものがあるか、多くの教科書を調べたり、スクールライフサポーターでの授業見学等を体験したりして知識（ひきだし）を増やしたいと思います。